

名古屋市における都心型コンベンション施設の必要性について

公益財団法人中部圏社会経済研究所企画調査部部长 荒川 由章

当財団は2012年度の調査研究報告書として、「リニア中央新幹線の波及効果をより拡大させるために～名古屋駅の機能強化と駅周辺地区再開発のあり方～」を公表した。報告書では欧州の駅周辺地区再開発事例などを参考に、リニア中央新幹線の効果をより広域に広げるためには、拠点駅である名古屋駅および名古屋駅周辺地区の機能強化が重要であり、その一環として、名古屋駅の西側地区に多目的型のコンベンションセンター設置についても提案している。本論では、報告内容を補完すべく、名古屋市におけるコンベンションの開催状況やコンベンション施設の現状を、国内他都市との比較によって検証し、都心型コンベンション施設の必要性について考察してみたい。

1. コンベンション開催の効果

一般にはあまり知られていないが、わが国では1994年に「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」、通称コンベンション法という法律が成立しており、国を挙げて国際会議を開催しようという方向性が打ち出されている。同法の成立当時には、コンベンション（会議・集会や博覧会・見本市など）は国際的な観光の魅力を高めるひとつのツールといった位置づけであったが、現在では、コンベンションの開催は当該地域の社会経済活動の幅広い分野で効果を与えることが明らかになっている。

コンベンションの開催に伴う経済効果には、運営者側に係る経費投下、参加者側に係る消費活動といったものがあり、さらに各々、直接的効果と間接的効果に分けられるが、1万人規模の国際会議が開催された場合、経済波及効果は約38億円、誘発税収額は1.6億円（国税）になるとの試算もある（観光庁「我が国のMICE競争力強化に向けて」^(注1)2012.3）。また、横浜市の「パシフィコ横浜」の調査では、2007年度のコンベンション開催（年間約1,000件、来場者約300万人）による横浜市への経済波及効果は、約690億円と試算されている。

こうしたコンベンションは、経済波及効果以外

にも、開催都市のイメージアップや地域社会の人々との交流活動といった社会的効果も生む。そのため、国内外の都市では、コンベンションによって地域の活性化を図ろうと鎬を削っており、その結果としてコンベンションの開催件数そのものが、世界的な都市間競争の時代における、都市の競争力指標とさえ言われるようになってきている。

2. 都市別に見た国際会議の開催状況

ここで、わが国における都市別の国際会議の開催状況を確認してみる（表1）。日本政府観光局（JNTO）の統計資料によると、2011年にわが国で開催された国際会議（1,892件）の開催都市のうち、最も開催が多いのは東京（23区）であり、全体の約25%となっている（会議が複数の都市にまたがって開催された場合、各都市で1件ずつカウントされているため、大まかな数字で全体割合を認識した方が良い）。中部圏の都市での開催では名古屋市が112件、都市別に見れば全国第5位で、2006年以降6年連続して同じ順位となっている。

2006年から2011年までの5年間で、着実に順位を上げてきているのが横浜市と福岡市である。横浜市には巨大コンベンション施設、「パシフィコ

(注1) 多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。企業などの会議（Meeting）、企業などの行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会などが行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字をとった造語。

表1 都市別に見た国際会議の開催状況

(単位：件)

順位	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)	東京(23区)
	408	353	428	357	460	440	480	497	491	470
2	京都市	京都市	京都市	京都市	京都市	京都市	横浜市	福岡市	福岡市	福岡市
	145	149	170	137	154	183	184	206	216	221
3	名古屋市	神戸市	大阪市	名古屋市	福岡市	横浜市	福岡市	横浜市	横浜市	横浜市
	86	84	94	108	126	157	172	179	174	169
4	大阪市	名古屋市	名古屋市	横浜市	大阪市	福岡市	京都市	京都市	京都市	京都市
	82	83	89	105	111	151	171	164	155	137
5	神戸市	大阪市	横浜市	福岡市	名古屋市	名古屋市	名古屋市	名古屋市	名古屋市	名古屋市
	79	80	82	97	109	109	130	124	122	112
6	福岡市	福岡市	福岡市	大阪市	横浜市	神戸市	神戸市	大阪市	神戸市	神戸市
	77	77	76	89	103	89	94	94	91	83
7	横浜市	つくば地区	札幌市	つくば地区	神戸市	つくば地区	つくば地区	札幌市	札幌市	札幌市
	70	72	65	60	76	82	80	82	86	73
8	つくば地区 ^(注1)	札幌市	千葉市	神戸市	つくば地区	大阪市	札幌市	神戸市	仙台市	大阪市
	55	46	59	58	64	76	77	76	72	72
9	札幌市	横浜市	千里地区	札幌市	千里地区	仙台市	大阪市	つくば地区	大阪市	千里地区
	42	41	58	54	49	51	77	74	69	54
10	仙台市	千里地区 ^(注2)	つくば地区	仙台市	札幌市	札幌市	千葉市	千里地区	つくば地区	つくば地区
	41	39	56	42	48	44	67	71	69	46

注1：つくば地区は、茨城県つくば市、土浦市を含む。

出典：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計

注2：千里地区は、大阪府豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を含む。

※対象会議は、①主催者が「国際機関・国際団体」又は「国家機関・国内団体」、②参加者総数50名以上、③参加国は日本を含む3か国以上、④開催期間は1日以上、以上の条件を全て満たすもの。

表2 2011年度の都道府県別国際会議の開催件数

(単位：件)

首都圏		関西圏		中部圏		九州圏	
東京都	484	福井県	1	富山県	6	福岡県	268
埼玉県	2	三重県	1	石川県	32	佐賀県	1
千葉県	46	滋賀県	3	福井県	1	長崎県	8
神奈川県	174	京都府	145	長野県	6	大分県	4
茨城県	47	大阪府	135	岐阜県	7	熊本県	10
栃木県	1	兵庫県	105	静岡県	11	宮崎県	8
群馬県	0	奈良県	24	愛知県	125	鹿児島県	5
山梨県	3	和歌山県	0	三重県	1	合計	304
合計	757	合計	414	滋賀県	3		
				合計	192		

出典：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計

横浜」が立地するため予想もつくところであるが、注目すべきは福岡市であろう。2005年までは名古屋市の下位に位置していたが、2006年を契機に一気に上位に踊り出し、この数年は東京（23区）に次ぐ全国第2位という順位を維持している。

都市別の開催状況について、もう少し視点を広げて大都市圏ごとにみたものが表2である。大都市圏の定義はさまざまだが、ここでは、首都圏は首都圏整備法に基づく1都7県（東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨）、近畿圏は近畿圏整備法に基づく2府6県（福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）、そして中部圏は中部圏開発整備法に基づく9県（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀）とした。なお、福井、三重、滋賀の3県は近畿圏、中部圏で重複している。

一見してわかるように、国際会議の開催件数からみた中部圏の現状は、首都圏の3分の1以下、近畿圏の2分の1以下という低水準にあるばかりでなく、福岡県1県にも遠く及ばない。

3. 国際会議の施設別比較

次に、国際会議の開催件数、参加者総数を施設別で見してみる。（表3、表4）

開催都市別で名古屋市が全国第5位であったにもかかわらず、施設別の国際会議参加者総数で名古屋国際会議場が全国第2位となっている。施設別での開催件数順位が第6位であることを考慮すれば、第1位のパシフィコ横浜には及ばないものの大健闘といって良いであろう。しかしながら、名古屋市内には、上位20位に入る他のコンベンション施設がない。名古屋市には高級ホテルが少ないという指摘が以前からあるが、国際会議を招致できているかどうかという観点では、その指摘は間違っていないことがわかる。また、名古屋国際会議場以外の公的コンベンション施設も、少なくとも主催者側からの評価は必ずしも高くないように思われる。

一方で、都市別に見た際に躍進していると指摘した福岡市に目を向けると、施設別の第8位に福岡国際会議場、第12位にアクロス福岡、第16位に

表3 2011年の国際会議開催件数（大学を除く）

（単位：件）

順位	会場名	開催件数
1	パシフィコ横浜	69
2	国立京都国際会館	40
3	つくば国際会議場	32
3	大阪国際会議場	26
3	神戸国際会議場	26
6	名古屋国際会議場	24
7	京王プラザホテル	22
8	福岡国際会議場	21
9	東京ビッグサイト	20
10	淡路夢舞台国際会議場	19
10	国際連合大学国際会議場	19
12	東京国際フォーラム	17
12	北九州国際会議場	17
12	幕張メッセ	17
12	アクロス福岡	17
16	ヒルトン福岡シーホーク	16
16	三田共用会議所	16
18	神戸ポートピアホテル	14
19	札幌コンベンションセンター	12
19	広島国際会議場	12
19	一橋記念講堂	12
19	仙台国際センター	12

表4 2011年の国際会議参加者総数（大学を除く）

（単位：人）

順位	会場名	開催件数
1	パシフィコ横浜	143,501
2	名古屋国際会議場	88,284
3	国立京都国際会館	62,369
4	福岡国際会議場	52,857
5	東京ビッグサイト	46,449
6	大阪国際会議場	40,011
7	京王プラザホテル	29,932
8	幕張メッセ	24,989
9	神戸国際会議場	22,499
10	神戸ポートピアホテル	21,634
11	東京国際フォーラム	21,328
12	札幌コンベンションセンター	17,266
13	北九州国際会議場	12,371
14	つくば国際会議場	10,543
15	広島国際会議場	7,578
16	仙台国際センター	7,328
17	朱鷺メッセ	6,367
18	ヒルトン福岡シーホーク	5,209
19	一橋記念講堂	4,870
20	アクロス福岡	4,670

出典：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計

ヒルトン福岡シーホークと上位20位以内（大学を除いた場合）に合計3施設が入っている。

4. 愛知県のMICE実態調査報告書

愛知県は2012年3月に「MICE実態調査報告書」をとりまとめ、県内外のMICE主催者、関係事業者（旅行会社、PCO（会議運営会社）など）の意識調査結果（ヒアリング・アンケート）を公表している。非常に示唆に富んだ内容であるため、ここでいくつかを紹介しよう。

同報告書によれば、参加者の会議開催環境の満足度（「非常に満足」と「概ね満足」の合計）において、愛知県の会議施設に満足しているのは91%。外国人のみでは99%に達しており、会議参加者にとっては愛知県（実質的には名古屋市）の会

議施設の評価は高いといえる。

一方で、PCO（会議運営会社）へのヒアリング結果からは次のような課題が挙げられている。

- ・名古屋国際会議場は交通の乗り換えが不便ということもあり、規模が小さい学会を中心に、「ウインクあいち」で開催する学会が増加している。
- ・名古屋国際会議場と一体的に利用できるホテルの立地が望ましい。
- ・2,000～3,000人規模で学会開催ができるのは名古屋国際会議場のみで、会議施設が少ない。
- ・名古屋国際会議場は展示スペースが狭い、ホテルから離れている、名古屋駅からのダイレクトアクセスがない、などの使い勝手の悪さから、名古屋を素通りしてしまうこともある。
- ・ウインクあいちは1,300人規模の学会が限界。

表5 愛知県の強みと課題

評価項目	強み	課題
MICE関連施設	<ul style="list-style-type: none"> ・国内有数の国際会議場（名古屋国際会議場：収容人数3,012人）を有している。 ・名古屋国際会議場は他都市の同規模の国際会議場に比べて利用料金が安い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界と比べると施設の規模が小さい。 ・コンベンションと展示会を一体的に行える十分な施設がない。 ・会議施設のバリエーションが少ない。国際会議場とウインクあいちの中間規模の施設があると良い。 ・会議施設とホテルが隣接していない。
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・国際会議場、国際展示場へは鉄道でアクセスできるように、名古屋市内の交通機関は整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港、会議施設、ホテル等の各施設間を結ぶ交通手段が弱い（ダイレクトアクセスがない）。 ・空港から市内へのアクセスがわかりづらい。特に、多言語による交通案内、施設表示が不足している。
開催支援	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市内40施設からなる、ユニークベニューリストの作成。 （注：ユニークベニューとは、一般的には開催できない特別な場所、例えば文化的施設で行う会議のこと。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催支援のメニューや規模は、他都市に比べて優れているとはいえない。 ・東京に比べると開催情報が入ってこないため、主催者の情報を足で稼がなくてはならず、誘致に向けた働きかけが十分できない。 ・学会の大会長は東京の先生が多く、また、学会事務局も東京にあるため、会場が東京・関東になることが多い。
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア意識の高まり。 ・ビジネスが中心であるが、京都よりも愛知は外国人客が多く、こうした外国人の観光ニーズは存在する。 ・本社を有する製造業の企業が多いことから、海外拠点の従業員を対象としたインセンティブツアーのニーズはある。 ・「産業」や「環境」などは、ここにしかない、ナンバーワンとなるテーマになりうる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに参加する人の意識は高いが、それ以外の一般市民には、外からの人をもてなすという意識が低い。 ・東京、大阪、京都に比べて知名度がなく、魅力が十分に知られていない。

（愛知県「MICE実態調査報告書」より抜粋）

名古屋国際会議場



また、フロアが分かれているため、上下に移動する必要があり、使い勝手が悪い。

- 学会の開催地は当番校が3年前には決まるが、ウインクあいちが2年前しか予約出来ない。名古屋国際会議場では受け付けてもらえる。

興味深いのは、PCO（会議運営会社）がコンベンション施設として名古屋国際会議場と「ウインクあいち」を比較している点である。ウインクあいちは、無料で使用できる備品が少ないなど使い勝手が良くないという意見があるものの、公的施設で利用料金が割安であることおよび名古屋駅前にあるという優れた立地条件であることが評価されているように思われる。報告書には、関係者調査による愛知県の強みと課題がわかりやすく整理されている。（表5）

5. 利用料金と展示場機能など

愛知県の関係者調査にもあるように、愛知県（名古屋市）のコンベンション施設の魅力のひとつは割安な利用料金だと言われている。そこで、国内の主な会議施設について利用料金を比較してみた。（表6）

三大都市圏における会議場の利用料金では、名古屋国際会議場が最も割安な水準にある。3,000人規模のコンベンションとしては、大阪国際会議場に比べても有利な状況にある。しかし、収容人

数が同規模である福岡国際会議場はより低い料金水準であり、福岡市が国際会議開催件数を伸ばしている要因のひとつは、同会場の利用料金の安さであると推察される。

次に、展示会を同時開催したいという主催者ニーズに応えられるかという観点から比較をする（表7）。各地のコンベンション施設では、会議場機能と展示場機能を同一施設内で持つものや近接する同じエリアの別施設と機能分担を行っているものがあり単純な比較は難しいが、大まかではあるが競合イメージを確認することはできるであろう。

会議機能、展示場機能ともに、パシフィコ横浜が他施設に比べて飛び抜けて優れた施設であることがよくわかる。名古屋国際会議場と大阪国際会議場は、会議機能、展示場機能ともに同じような規模であり、両会議場が国際会議の開催件数で近い順位で競合している理由のひとつは、そこにあるように思われる。また、神戸国際会議場は、会議機能では名古屋、大阪の両施設に劣後しているものの展示場機能は優れている。福岡国際会議場は、一定規模の会議機能、展示場機能を持ちながら利用料金は低廉である。

参考までに、主要施設の稼働率と竣工年を追記する。コンベンション施設の稼働率は約70%が上限だといわれているが、例えばパシフィコ横浜では、週末については5年先のイベントまで予約されているという。

表6 会議会場別の利用料金比較

会場名	施設名	収容人数(人)	利用料金(円)	1人あたりの単価(円)
名古屋国際会議場	センチュリーホール	3,012	1,200,000	398.4
パシフィコ横浜	国立大ホール	5,002	2,940,000	587.7
東京国際フォーラム	ホールA	5,012	3,903,900	778.9
大阪国際会議場	メインホール	2,754	1,562,400	567.3
福岡国際会議場	メインホール +多目的ホール	3,000	709,950	236.7
国立京都国際会館	大会議場	1,840	1,512,000	821.7
つくば国際会議場	大ホール	1,258	416,600	331.2
神戸国際会議場	メインホール	692	287,000	414.7

*いずれも土日祝日の全日使用。

出典：各施設HPより作成

*パシフィコ横浜は時間制のため9：00-22：00の13時間使用とした。

表7 会議会場に併設する展示会場の比較

会場名	会議場収容人数(人)	主な展示場規模	展示場面積計(m ²)
名古屋国際会議場	3,012	イベントホール 1,920m ² 白鳥ホール 1,250m ²	3,840
パシフィコ横浜	5,002	6,700m ² ホール×2 3,300m ² ホール×2	20,000
東京国際フォーラム	5,012	5,000m ² ホール×1 展示ホール他	10,588
大阪国際会議場	2,754	イベントホール	2,600
福岡国際会議場	3,000	マリンメッセ福岡 9,100m ² 福岡国際センター 5,052m ²	14,152
国立京都国際会館	1,840	3,000m ² ホール×1 1,500m ² ホール×1	4,500
つくば国際会議場	1,256	627m ² ホール×1 400m ² 規模ホール×2	1,502
神戸国際会議場	692	神戸国際会議場1～3号館	13,600
(参考)			
東京ビッグサイト	1,000	展示棟10ホール	95,660
幕張メッセ	1,664	展示場11会場	75,098
名古屋市国際展示場	500	展示館1～3他	34,671

出典：各施設HPより作成

(参考) 主要施設の稼働率と竣工年

施設名		規模	稼働率	竣工年
名古屋国際会議場	センチュリーホール	3,012人	68.4%	1989年
	イベントホール	1,920㎡	68.1%	
パシフィコ横浜	国立大ホール	5,002人	67.0%	1991年
	展示ホール	20,000㎡	70.0%	
東京国際フォーラム	ホール	5,012人	80.1%	1996年
大阪国際会議場	メインホール	2,754人	78.2%	1989年
	イベントホール	2,600㎡	82.6%	
福岡国際会議場	メインホール+多目的ホール	3,000人	約72%	1989年
国立京都国際会館	大会議場	1,840人	36.3%	1966年
	イベントホール	3,000㎡	36.3%	

出典：「横浜市MICE機能強化に向けての提言書」(2012.3)、各施設HPより

* 福岡国際会議場は2008年実績で、他施設は2009年実績。

6. 会場アクセスについて

コンベンション施設の比較において、もうひとつ忘れてはならないのが会場までのアクセスの利便である。表8で、最寄りの新幹線駅および最寄りの空港から各会場まで公共交通機関によるアクセスの時間と料金を比較した。

東京国際フォーラムは別格として、会場アクセスにおいても、パシフィコ横浜は優れている。名古屋国際会議場は、最寄り空港からのアクセスが時間、料金ともにいくつかの施設に劣後しており、残念ながら海外からの会議誘客には必ずしも有利な状況にない。今後、国際会議への外国人参加者を増やしていくためには、つくば国際会議場のよ

表8 会議会場までの公共交通機関によるアクセス比較

会場名	最寄りの新幹線駅から		最寄りの空港から	
	時間	料金	時間	料金
名古屋国際会議場	名古屋駅から約20分 【地下鉄13分(乗換1回)、徒歩5分】	地下鉄 230円	中部国際空港から約40分 【名鉄25分、地下鉄2分、徒歩5分】	名鉄 1,140円 地下鉄 200円
パシフィコ横浜	新横浜駅から約15分 【JR2分、京急9分】	J R 130円 京急 330円	羽田空港から約30分 【京急25分、みなとみらい3分】	京急 440円 みなとみらい 180円
東京国際フォーラム	東京駅から約5分 【徒歩5分】	—	羽田空港から約30分 【京急14分、JR9分、徒歩1分】	京急 400円 J R 150円
大阪国際会議場	新大阪駅から約20分 【JR6分(乗換1回)、徒歩10分】	J R 160円	関西国際空港から約60分 【南海30分、地下鉄5分、徒歩10分】	南海 890円 地下鉄 200円
福岡国際会議場	博多駅から約15分 【徒歩2分、バス14分】	西鉄バス 220円	福岡空港から約25分 【地下鉄5分、徒歩2分、バス14分】	地下鉄 250円 西鉄バス 220円
国立京都国際会館	京都駅から約25分 【地下鉄20分、徒歩5分】	地下鉄 280円	関西国際空港から約100分 【JR75分、地下鉄20分、徒歩5分】	J R 3,080円 地下鉄 280円
つくば国際会議場	東京駅から約75分 【高速バス65分、徒歩8分】	高速バス 1,150円	羽田空港から約90分 【高速バス80分、徒歩8分】	高速バス 2,540円
神戸国際会議場	新神戸駅から約20分 【地下鉄2分、徒歩4分、新交通10分】	地下鉄 200円 新交通 240円	関西国際空港から約40分 【高速船30分、新交通8分】	高速船 1,800円 新交通 240円

出典：各施設HP、ルート検索ソフト「駅すばあと」より作成

* 中部国際空港～金山、関西国際空港～京都は、座席指定料金を付加している。

* つくば国際会議場には、茨城空港までの無料バスも運行されている。

うに、会議場から空港までの無料送迎バスを準備するなどの方策が必要になるかもしれない。

大阪国際会議場は、会場アクセスにおいて名古屋国際会議場と同じような位置づけにある。福岡国際会議場は、バス（またはタクシー）でなければ会場入りすることができないが、主催者側が主要駅からのシャトルバスを準備すれば利便性が損なわれることはないため、この点だけをもって必ずしも不利であるとは言えないであろう。

つくば国際会議場を除き、各施設とも最寄りの新幹線駅からのアクセスが30分以内となっている。そこで、次に問題となるのは、「乗換時間の短さ」や数字に表れない「乗り換えのしやすさ」であり、場合によっては乗り換えに係るさまざまな障壁の有無がコンベンション施設の評判に直結する可能性がある。この点では、東京国際フォーラムは東京駅と直結していることで徒歩5分で会場入りできる利便性の高さを誇り、他の施設を圧倒している。

7. 都心型の中規模コンベンション施設を

このような状況において、今後、名古屋市はどのようにコンベンション機能を高めていけば良いのであろうか。これまで見てきたように、名古屋国際会議場はアクセス面に課題はあるものの、この地域のコンベンション機能を一手に担っているといつて良い。そうしたなかで、他都市の施設との比較から見えてくるのは、展示場機能の充実の必要性であろう。

名古屋市内の大型展示場施設としては名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）があるが、名古屋国際会議場とは距離が離れすぎており、残念ながら相互補完は難しい。また、名古屋国際会議場の敷地内に新たな展示場を設けることは、用地取得の面で現実的ではない。さらには、名古屋市では、現在、名古屋市国際展示場・第一展示館を金城埠頭内で建て替える計画が進んでいる。財政に余裕がないなかであって、名古屋国際会議場に近接する場所に大型展示施設を建設することは時間的にも財政的にもハードルが高い。

そこで、名古屋国際会議場とは別に、名古屋市のよりアクセス性の高い都心部にコンベンション機能をカバーする施設を建設し、そこに展示場も併設してはどうであろうか。施設の規模についても考えてみたい。表9は、規模別に見た国際会議の開催件数を掲げたものである。

人数の多い会議の方が地域への経済効果が高い。しかし、2011年における参加者総数が2,000人を超える国際会議の開催件数の割合は、我が国全体の6.8%に過ぎない。名古屋国際会議場の収容人数が3,012人、そして、ウインクあいち大ホールの収容人数は801人である。他都市、特に東京や横浜との競争を考慮すれば、名古屋が目指すべき施設は、収容人数が5,000人規模の大型施設ではなく1,000人～2,000人程度の中規模施設ではないだろうか。可変式で展示会場ともなる多目的ホールを併設させた複合的な中規模コンベンション施設とすれば、名古屋市国際会議場やウインクあいちとの相互補完関係を築き、主催者側のさまざま

表9 規模別に見た国際会議の開催件数

(単位：件)

参加者総数	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2011年の構成比
100人未満	445	525	571	584	499	26.4%
100人以上300人未満	788	842	847	879	766	40.5%
300人以上500人未満	240	268	269	264	209	11.0%
500人以上1,000人未満	182	202	166	178	170	9.0%
1,000人以上1,500人未満	75	74	90	86	89	4.7%
1,500人以上2,000人未満	35	36	29	40	30	1.6%
2,000人以上	93	147	150	128	129	6.8%
合計	1,858	2,094	2,122	2,159	1,892	—

出典：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計

なニーズに対応することができ、名古屋市のコンベンション機能を向上させる施策となるであろう。(もちろん、利用料金を安価にすることは必須である。)

また、単にコンベンション施設を新設するだけでなく、いわゆる「ハコモノ批判」を浴びないためにも、これまでにない新たな視点を付加することも重要である。そこで、新たな役割として「防災拠点」としての機能を考えてみたい。

利便性の高い都心のコンベンション施設が、災害時には緊急避難施設や帰宅困難者の一時避難所として大きな役割を果たせば、地域住民だけでなく帰宅困難者にとっても極めて有意義な施設となる。名古屋市においては名古屋市国際展示場(名古屋市港区)をはじめとして名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)や日本ガイシスポーツプラザ(名古屋市南区)も、栄地区や名駅地区という都心部の通勤者の一時避難場所としては効果的な立地ではない。名古屋市公会堂や日本特殊陶業市民会館(いずれも名古屋市中区)も、都心部にはあるものの栄一名駅を結ぶセンターラインには近接していない。都心の昼間人口に対応する防災拠点は、災害時の人の流れを考慮するとこのセンターライン上にあることが望ましい。現状では、ウイंकあいちがこのセンターライン上にあり防災拠点のひとつとして期待される。これに加えて、栄一名駅を結ぶセンターライン上に複合的な中規模コンベンション施設があれば、コンベンション施設として都市競争力の向上を図るとともに防災拠点として都市防災力を向上させることが可能になる。

8. 名古屋駅直結型のコンベンションセンター

当財団が2013年4月に公表した調査研究報告書「リニア中央新幹線の波及効果をより拡大させるために～名古屋駅の機能強化と駅周辺地区再開発のあり方～」では、リニア中央新幹線の開通効果をより広域に拡大させるために、交通結節機能が集積する名古屋駅に高速道路を直結させる開発プランが示され、その中で駅西側地区に高速道路と

結節する多目的型のコンベンションセンターが提案された。

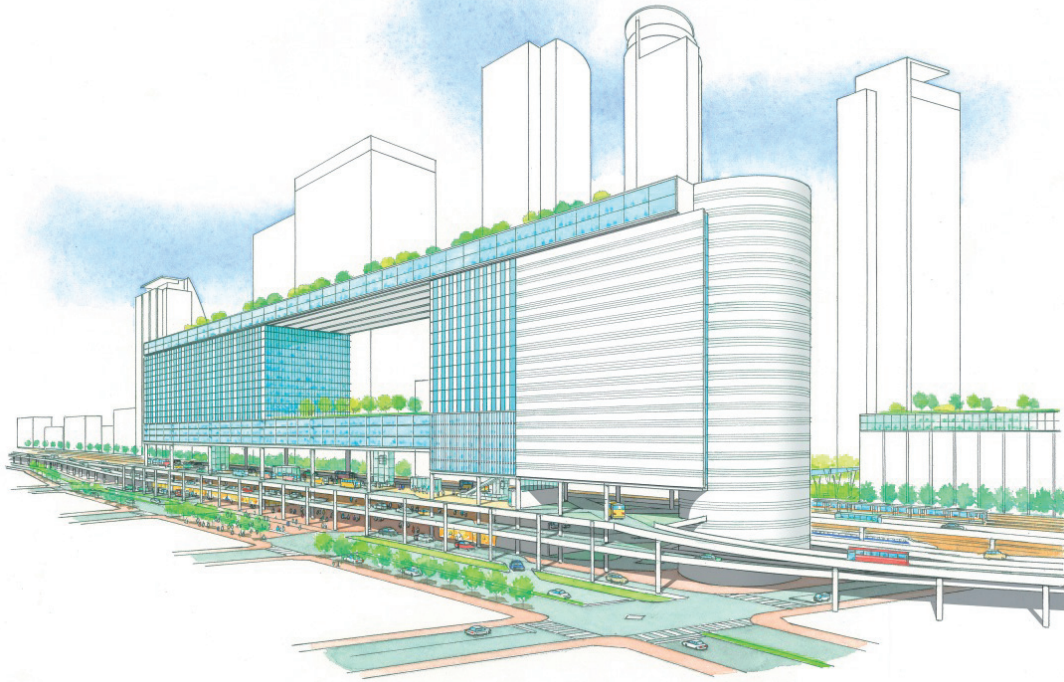
コンベンション施設の重要性は既述のとおりだが、名古屋市の都心部でもあり名古屋大都市圏のゲートウェイでもある名古屋駅に利便性の高いコンベンション施設が設置されれば、名古屋市の都市競争力は大きく向上し、周辺地域への波及効果も生まれるであろう。また、次のようなさまざまなメリットも期待できる。

- 最大のメリットは、名古屋駅がリニア中央新幹線の発着駅であるため、リニアそのものを観光資源として活用できることである。外国人が「コンベンション+リニア」を目的に名古屋に来る可能性を大いに期待できる。
- 乗り換えというバリアがないため、中部国際空港からのアクセスが評価される。少なくとも、名古屋国際会議場よりも競争力が高い。
- あおなみ線というダイレクトアクセスにより、名古屋港との連携・活用の可能性が大きく広がり、金城埠頭にある名古屋市国際展示場との連携の可能性もある。
- 名駅地区に多数あるホテルが、会議に前後して設定されることが多いコングレスツアーなどの拠点として利用されれば、中部圏の各地域だけでなく首都圏や近畿圏への観光拡大の効果も生む。

また、名古屋駅周辺地区は標高が低いため、高潮や津波が発生した場合の広範囲な浸水の可能性が指摘されている。さらに、名駅西側地区には、耐震性に不安のある低層建築が多数存在している。防災面においても、駅直結型の防災拠点としても活用できるコンベンションセンターがあれば、こうした不安に応えることができるとともに、名駅地区における帰宅困難者対策にも貢献する。

本論は、先の報告書における名駅地区開発プランのうち、名駅西側地区へのコンベンションセンター設置に焦点を当ててその必要性について再考し、名古屋国際会議場と国内のコンベンション施設との比較を行った。世界的な都市間競争が進展するなかで、国内の他都市だけではなくアジアの

名古屋駅西側地区高速道路結節、コンベンション施設のイメージ



調査研究報告書「リニア中央新幹線の波及効果をより拡大させるために」概要版より

諸都市も競争相手となるため、本来ならば海外との比較も視野に入れる必要があるが、海外諸都市とは比較していない。その理由は、日本はコンベンション開催で大きく出遅れており、シンガポールや北京、ソウルといった海外の都市との比較において、東京でさえ世界都市別国際会議開催件数が第41位（「国際会議協会2011」による）にとどまっており、名古屋市ではまったく勝負にならないためである。

リニア中央新幹線が開通すると名古屋―品川間は約40分で結ばれる。14年後には、名古屋大都市圏は間違いなく日本のメガロポリスの一翼を担うことになる。そのなかで、名古屋大都市圏が特色ある圏域として存在意義を高めていくためには、独自のセールスポイントを持つことが重要である。その実現に向けた施策のひとつとして、名古屋駅直結型のコンベンションセンターの設置が是非とも必要であると考え。当財団の報告書を契機に、多方面にわたる議論が展開されることを期待したい。